令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・北海道・古平町）

実施報告書
（概要版）

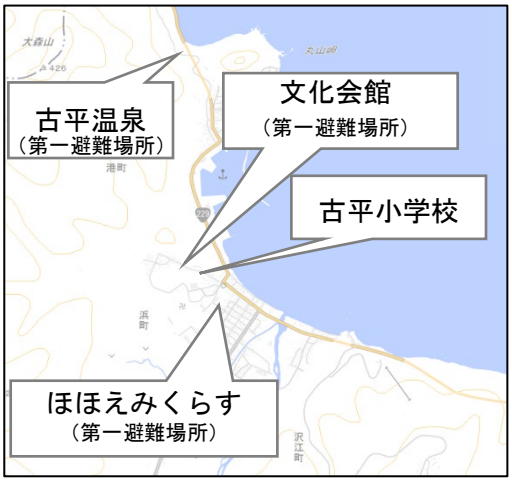
北海道古平町について

古平町は総面積の約 90%が山地で、地形は南北に長く、その中央を古平川が縦貫して河口周辺に平坦地をつくり、この地区と西北部を流れる丸山川沿いに人口が集中している。

古平町では留萌沖を震源とする大規模地震の発生が想定されており、まず、ひとりひとりが地震の揺れから身を守ることが必要である。

今後の訓練や実際の災害時の実効性を高めるために、町としての共助のあり方や細部の調整の気づきを見いだすねらいとした。

訓練後半は、避難所開設の必要性を認識し、町内の共助の重要性に気づく知識習得の機会を設けた。



地図出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・北海道・古平町）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年10月31日（土）、午前10時、留萌沖を震源とする強い地震が発生し、古平町では震度5強を観測した。古平町では、停電が発生し、国道229号では信号交差点が混乱。午前10時2分、気象庁は後志地方沿岸に大津波警報を発表し、古平町役場では直ちに町内全域に対して地域防災無線で避難勧告を発令し、訓練を開始した。

■実施日時：令和2年10月31日（土）10：00～13：00

（事前ワークショップ10月5日(月)、訓練後ワークショップ12月7日(月)）

■実施地区：古平町

■主　　催：古平町、北海道、内閣府

■参加者数：234名

■参加機関：北後志消防組合古平支署、北後志消防組合古平消防団、社会福祉法人古平福祉会、古平町食生活改善推進員会、東しゃこたん漁業協同組合生産部、ヤマヤ物産(有)、(株)彩生、合同容器(株)、(株)総合サービス、ウォレットジャパン(株)、(株)ムラカミ、(株)大島水産、(株)よ吉野、北海道、札幌市

訓 練 の 評 価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約 234 名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

〇参加者の大多数が時間までに避難経路要所を通過し、浸水想定区域を越えることができた。

〇避難所へ入場する際のコロナ対策として、検温・手指消毒等の作業を実施した。初めての試みであったが、滞りなく円滑に実施することができた。

【今後の対策案】

〇町民の中には過去の訓練を通して、津波が発生したら近くの裏山に避難すべきとの考え方が刷り込まれているため、避難生活を営める場所へ避難することの重要性を今後一層周知していく必要がある。

〇避難所開設訓練は、統括責任者の指示を役場サイドの指揮役が要員へトップダウンできる体制を整備しておくことが望ましい。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・北海道・古平町）

訓練内容

令和２年10月５日(月) 事前ワークショップ

共助を実践する上での地区防災計画運用の有用性についての講演を聴いた後、実際に地図を用いて災害時の避難経路を確認した。また、福祉施設の入居者や工場での外国人研修生等要配慮者の避難方法の留意点について意見交換を行い訓練当日に向けて意識を高めた。

▼説明資料（抜粋）

10月31日(土)10:00～
シェイクアウト訓練・津波避難訓練・避難所開設訓練・設置運営訓練・防災講話・炊き出し訓練

緊急地震速報の発表後、参加者は、各自の居場所で身の安全確保のためシェイクアウト訓練を実施した。その後、町では防災無線を用いて避難指示を発令し、最寄りの高台等へ避難するよう住民に呼びかけた。要配慮者の避難については避難誘導や介助する職員の配置を明確化させておく必要があることが分かった。

避難場所では安否確認をするとともに、到着時間を記録した。

古平小学校にて、参加者に避難生活のイメージをもってもらうため、消防団のレクチャーによる段ボールベッド・パーテーションの組立、使用体験を実施した。また感染症対策を踏まえた避難所運営の一環として衛生用品の紹介を受けた。

札幌管区気象台気象防災部地震火山課長の阿南恒明氏よる、地震・津波災害の基本的な防災知識をテーマにした講演会を実施し、町民の防災知識の向上を図った。

古平福祉会「みっくすベジタ」で調理したカレーライスを古平町食生活改善推進員会で配膳し参加者全員で食べた。

▼シェイクアウト訓練

▼津波避難訓練

▼段ボールベッド組立・使用訓練

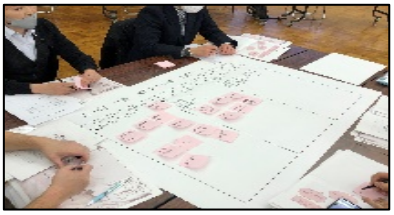
▼防災講演会

▼炊き出し訓練

令和２年12月７日(月) 訓練後ワークショップ

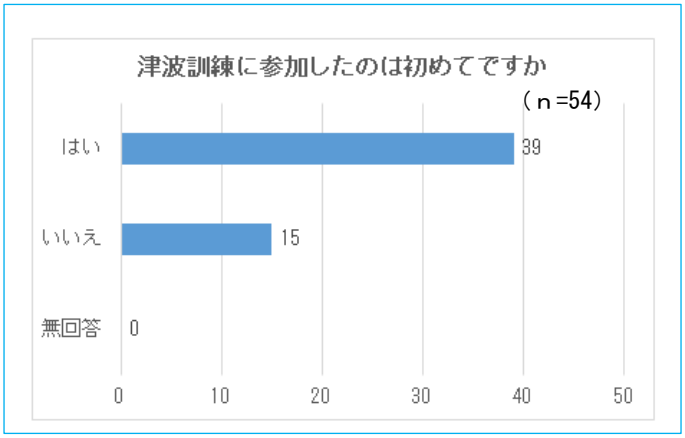
津波避難訓練の振り返りを実施し、高齢者等の要配慮者の避難については、あらかじめ地域で把握し、皆で協力する必要があること、今後、防災訓練は町全体の行事として継続して実施する大切さ等の認識を共有し、来年度以降の訓練に反映することとした。

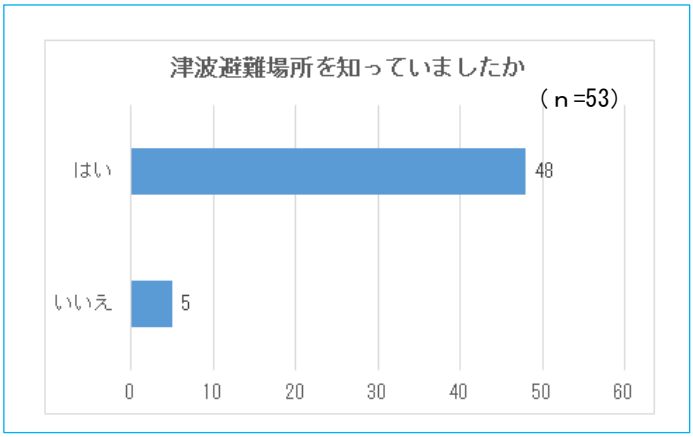
▼参加者住民等による意見交換

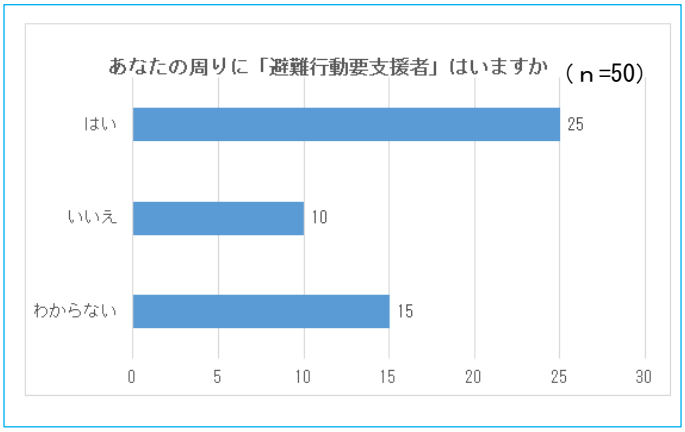


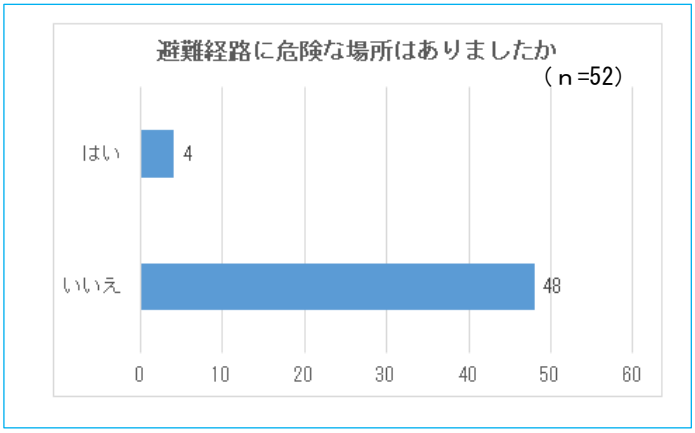
アンケート結果

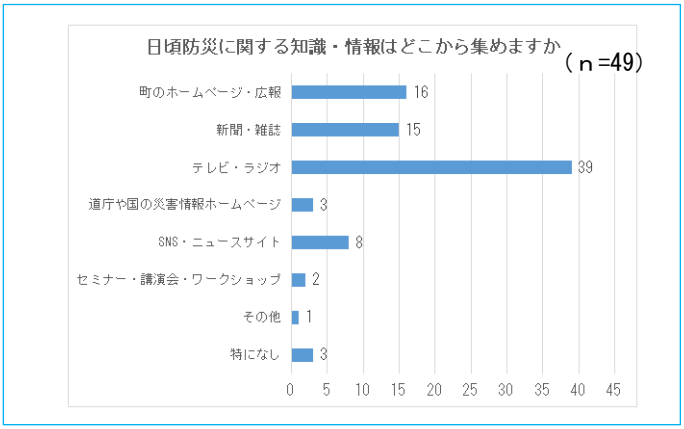
参加した町民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

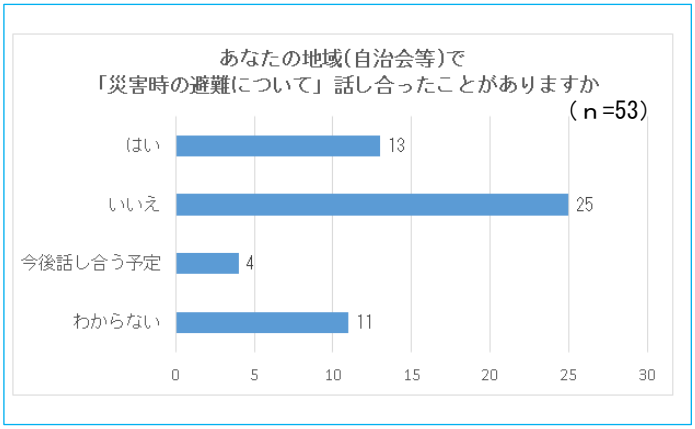












【自由意見】

〇自宅から避難所までの経路や移動時間を知ることができた。

〇段ボールベッドやテントの組み立てなど実際に見ることができてよかった。

〇足腰の弱い人は避難できないので、巡回車両があると良いと思った。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・三重県木曽岬町）

実施報告書
（概要版）

三重県木曽岬町について

木曽岬町は、三重県の北東端に位置し、木曽川や伊勢湾に面した、海抜ゼロメートル地帯である。

昭和34年の伊勢湾台風では、全域が水没する等により死者328名の尊い命が失われるなど、これまでにいくつもの災害が発生しており、まさに「水との闘いの歴史」が繰り返される町である。

南海トラフ巨大地震による大規模災害の可能性に対応するため、平成27年度から平成30年度までに、全町民が避難できる「指定緊急避難場所」を町内13箇所に完備した。

また、海抜0m地帯特有の地形により、一度浸水すると長期間にわたり避難生活が必要となることから、事前に予測できる台風についての町外への広域避難訓練を、伊勢湾台風60周年の契機である令和元年に実施した。

令和2年度には、各災害の避難のタイミングや「津波・洪水・高潮」ハザードマップを含む防災ガイドブックを発行し、さらなる安全・安心なまちづくりに取り組んでいる。

出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・三重県木曽岬町）

訓　練　概　要

◆訓練想定：令和2年11月5日、午前10時00分に、南海トラフを震源とする巨大地震が発生し、木曽岬町で最大震度7を記録、木曽岬町には86分後に津波が到達し、最大で2.7mの津波が襲来する見込みであるとの想定で、木曽岬町は直ちに住民に対し津波からの避難を呼びかけた。

◆実施日時：令和2年11月5日（木）10：00～12：00
※　訓練前ＷＳ：令和2年 9月17日（木）13:30～16:00
訓練後ＷＳ：令和2年12月15日（火）13:30～16:00

◆主　　催：木曽岬町、内閣府

◆参加者数：約500名

◆参加機関：町内全17地区自主防災会、木曽岬小学校、木曽岬中学校、木曽岬、こども園、木曽岬町消防団、桑名市消防署木曽岬分署、桑名警察署、三重県、町指定緊急避難場所協定締結企業（中部畳材㈱、石田鉄工㈱、はごろもフーズ㈱、木曽岬町プラント、浅井工業㈱）

訓 練 の 評 価

◆コロナ禍という制約の中での訓練環境であったが、ワークショップ及び防災訓練（実動）を通して住民、小・中学生、こども園児及び指定緊急避難場所協定締結企業が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

◆ワークショップ（以下、「ＷＳ」という。）
〇訓練前のＷＳにおいては、町における地域の地理的特徴等を踏まえ、災害リスクの理解、被害状況や災害時の避難行動のイメージ等について検討した。
〇訓練後の検証ＷＳにおいては、実動訓練を通じて気付いた点や改善事項等について振り返るとともに、グループで活発な意見交換や検討を行うことにより、将来的に整備する地区防災計画の資を得ることができた。

◆防災訓練（実動）
〇コロナ禍の中、感染防止対策を徹底したうえで町全域を対象に訓練を実施し、最寄りの指定緊急避難場所への迅速な避難、到着後の確実な安否確認や災害対策本部への避難状況報告等が訓練できたことから、木曽岬町住民、学校、こども園、役場の職員の方の地震・津波への防災への意識の高さを感じることができた。
〇避難の際に非常持出品袋の携行を周知していたが、携行者は少なかったなど、訓練の成果を評価する意見とともに、今後の改善に資する意見なども見られる有意義な訓練となった。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・三重県木曽岬町）

訓 練 内 容

9月17日13:30～16:00　事前ワークショップ

実動訓練の実施に先立ち、三重大学の川口准教授をアドバイザーに迎え、木曽岬町内のモデル地区を対象に事前ワークショップを実施し、津波避難を踏まえた地区防災計画策定について地域で検討した。

▼木曽岬町挨拶

▼事前ワークショップ

▼木曽岬町長挨拶

11月5日10:00～　実動訓練（シェイクアウト訓練及び津波避難訓練等）

木曽岬町全域を対象に、住民等が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

シェイクアウト訓練後、防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、小・中学生、こども園児及び住民等は、最寄りの指定緊急避難場所へ避難した。

木曽岬町役場では、災害対策本部設置運営訓練が、各指定緊急避難場所では安否確認と報告等を行う情報伝達訓練等が実施され、津波避難時の対応行動等について確認した。

シェイクアウト訓練

▼木曽岬小学校

▼木曽岬中学校

▼木曽岬こども園

津波避難訓練

▼北部地区津波避難タワー（指定緊急避難場所）

▼はごろもフーズ（株）（指定緊急避難場所）

▼災害対策本部設置運営訓練（木曽岬町役場）

12月15日13:30～16:00　訓練後ワークショップ

実災害発生時における避難行動の実効性を高めるため、実動訓練の検証ワークショップを実施し、避難計画の見直し・修正等地区防災計画素案作成について検討した。

▼内閣府挨拶

▼検証ワークショップ

▼アドバイザー　三重大学　川口准教授

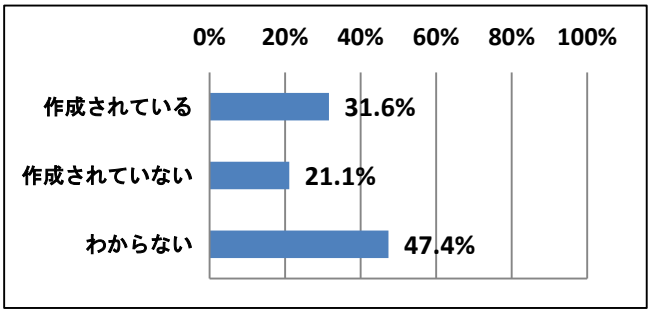
令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・三重県木曽岬町）

アンケート結果

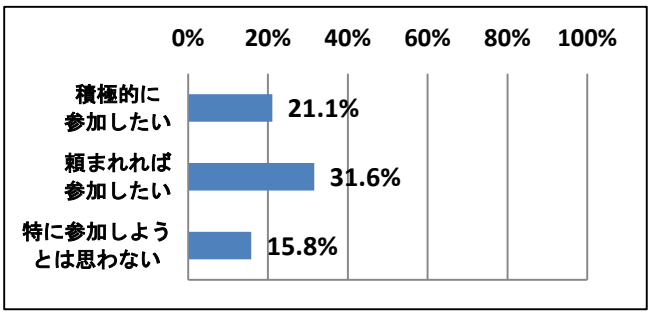
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（ 訓練前WS　防災訓練（実動）　訓練後検証WS ）

訓練前WS

あなたの住んでいる地区独自の「地区防災計画」は作成されていますか。（回答数：19）

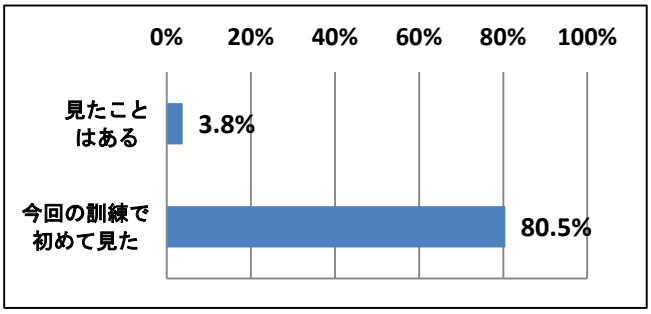


「地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いますか。（回答数：19）

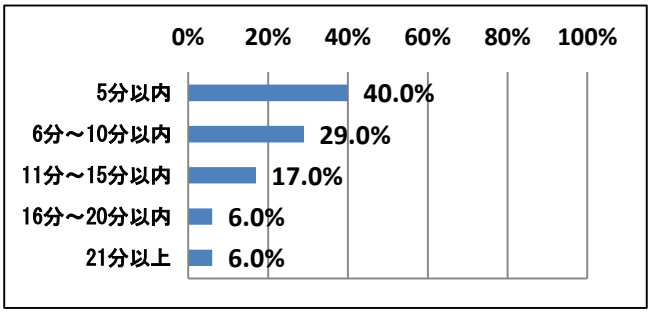


防災訓練（実動）

「防災ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ」、又は「津波ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ」を見たことがありますか。（回答数：185）

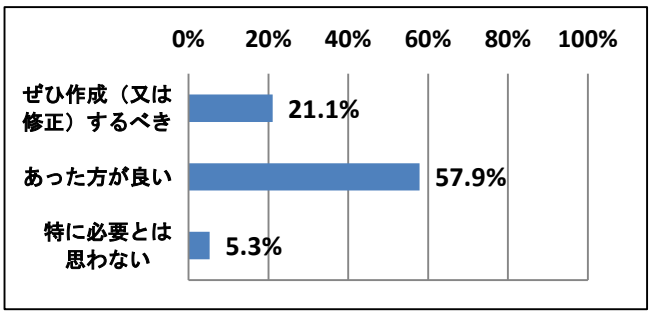


避難先（指定緊急避難場所）へは出発地（自宅等）から何分かかりましたか。（回答数：185）

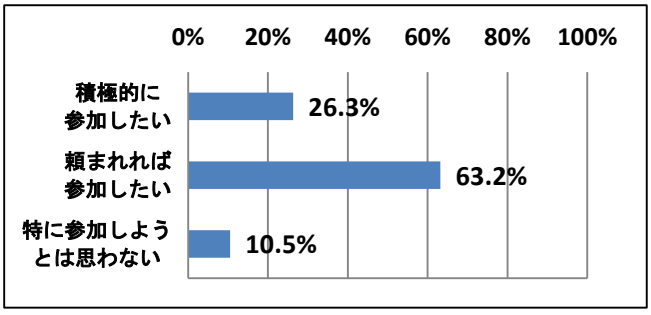


訓練後検証WS

「地区防災計画」を作成（修正）する必要があると思いますか。（回答数：19）



「地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いますか。（回答数：19）



【自由意見】

（訓練前ワークショップ）

〇津波が到達するまでに86分だと分かった。今まで数分で到達すると思っていた。安心するのではなく、すぐ逃げられるように準備と対策をしていきたい。

（防災訓練（実動））

〇避難施設が高齢者や障がい者に全く対応できていない。下から上に上がるのにどうすればよいか？背負える人より背負われる人の方が圧倒的に多い。

〇平日とはいえ参加者が少なかった。意識を高める工夫をしてほしい。

（訓練後検証ワークショップ）

〇皆と検討ができ、自分では気付かなかったことが聞けて、大変役に立った。

令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・和歌山県・海南市）

実施報告書
（概要版）

和歌山県海南市について

海南市は、和歌山県の北西部に位置し、北は和歌山市・紀の川市、東は紀美野町、南は有田市・有田川町に隣接し、西は紀伊水道に面している。また、熊野古道が南北に通り、古くから交通の要衝であることから、万葉の昔から多くの来訪者で賑わっている。

産業では、日本四大漆器の一つである「紀州漆器」の産地であるとともに、水まわり品を中心とする家庭用品の出荷も全国的に高いシェアを誇る。

海南市では、和歌山県内の市町村では初めて、南海トラフの巨大地震などの大規模災害に備えて、あらかじめ取るべき対策を時間ごとに決めておく「タイムライン」を地域防災計画に盛り込んだ。

また、地域住民一人ひとりが津波から迅速かつ円滑に避難できるよう「海南市津波避難計画」を作成し、毎年度、この計画等に基づく訓練や研修会を実施している。

出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・和歌山県・海南市）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年11月15日午前9時、南海トラフ巨大地震（M9.1）が発生、海南市において最大震度7を観測、最大8mの津波が39分後に襲来する模様であるとの想定で、海南市は市内全域に対し、避難を呼び掛けた。
■実施日時：令和2年11月15日（日）9:00～12:00
※　事前ＷＳ　：令和2年10月7日（水）18:00～20:00
訓練後ＷＳ：令和3年1月29日（金）18:00～19:00
■主　　催：海南市、和歌山県、内閣府
■参加者数：約120名
■参加機関：自治会自主防災会・臨海企業連絡会（藤白南・船津浜・宮の浜自治会自主防災会、ENEOS和歌山石油精製株式会社）、海南市職員、和歌山県職員等

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う各種制約の中、訓練参加者や訓練会場を限定して、海南市における令和2年度地震・津波防災訓練を実施し、ワークショップや津波避難訓練を通じた地区防災計画素案の作成及び「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン」に基づく避難所・医療救護所の開設・運営訓練を実施し、大きな成果を収めることができた。

地区防災計画案の作成においては、藤白神社を津波避難場所とする自治会自主防災会・臨海企業連絡会の役員に参加して頂き、アドバイザーを依頼した京都大学防災研究所牧紀男教授の指導のもと、地区防災計画に関する理解を深め、従来の津波避難計画を基に検討した地区防災計画素案を津波避難訓練で検証し、訓練後のワークショップにおいて検証結果を計画素案に反映し、計画案とすることができた。

新型コロナウイルス感染症対策を考慮した避難所・医療救護所の開設・運営訓練においては、発災時に避難所運営に従事する市職員に対し、ガイドラインに示された各種取組事例を紹介し、実体験することで、感染症対策を考慮した避難所運営に関する知識・技能を高めることができた。特に、ダンボールベッドやパーテーションを体育館の全面を使用して、災害時の避難所の様相を再現し、考察できたことは、災害イメージの理解や対応力の強化を図るうえで大きな効果があった。

訓練実施後の参加者へのアンケートや聞き取りの結果から、
〇今回の避難所訓練は非常に役に立った。このような訓練を、定期的に実施することが必要だと感じた。
〇今回素案を作成した「地区防災計画」は、他の地区でもぜひ作成すべきだと思った。
という評価の一方で、次のような意見も見られた。
〇避難所運営を市の職員だけで行うのは困難で、自主防災組織の参加が必要だと思う。
〇地域の防災力の強化のためには、このような訓練には、若い世代も積極的に参加することが必要だと思う。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・和歌山県・海南市）

10月7日(水)18:00～20:00 事前ワークショップ

事前ワークショップを実施して、地区防災計画の概要を学ぶとともに、自治会自主防災会・臨海企業連絡会の地区防災計画について検討した。

▼主催者挨拶

▼アドバイザー講演
（京都大学 牧紀男教授）

▼地区防災計画の検討

11月15日(日)9:00～9:30 シェイクアウト訓練・津波避難訓練

海南市全域を対象に、地域住民が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。その後、防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、藤白神社を津波避難場所とする住民による津波避難訓練等を実施した。

▼体育館での
シェイクアウト訓練

▼津波避難場所
への避難訓練

▼屋外での安否確認

11月15日(日)9:30～12:00　感染症対応避難所・医療救護所設置運営訓練

避難所運営に従事する市職員に対して、「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン《第二部》」に基づく感染症対策を考慮した避難所運営訓練及び医療救護所設置訓練を実施して、避難所における感染拡大防止策を徹底するための知識と技能を高めた。

▼ベッドの設置

▼避難所の受付

▼ＰＰＥ訓練

▼保健師による聞き取り

▼救護所テントの設置

▼訓練講評

令和3年1月29日(金)18:00～19:00　訓練後ワークショップ

訓練後ワークショップを実施して、実動訓練の検証結果をもとに、地区防災計画案を作成するとともに今後の訓練に対する課題等を話し合った。

▼ワークショップの様子

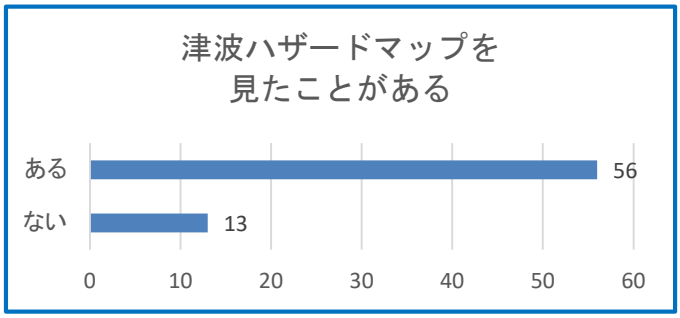
▼自主防災会代表

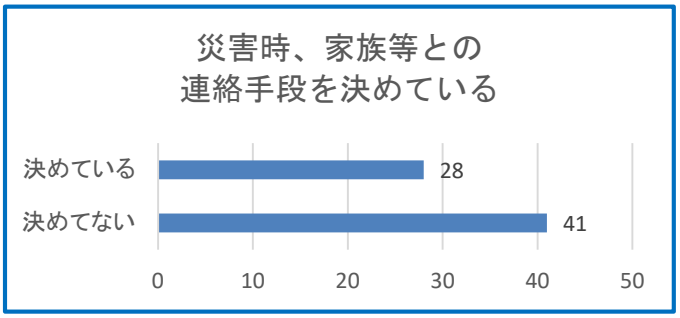
▼地元企業代表

アンケート結果

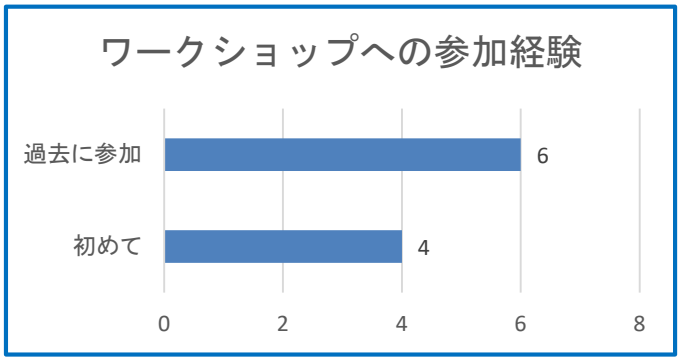
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

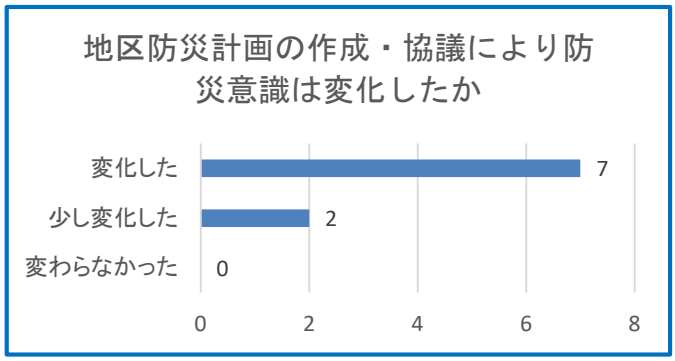
〇職員家族（アンケート回収数：69）





〇自主防災会代表者（回収数：事前10、訓練後9）





【自由意見】

（訓練全般に関する事項）

〇今回のような訓練を、定期的に実施することが必要だと感じた。
〇全住民の防災意識を高めるような啓発活動が必要だと思う。
〇地域の高齢化が進んでおり、若い世代の人たちがもっと積極的に参加することが必要だと思う。

（津波避難訓練に関する意見）

〇自らの避難と要配慮者の避難支援を両立させるのは大変なことだと思った。
〇夜間や悪天候時の避難はもっと厳しい状況になると思った。

（地区防災計画に関する意見）

〇「地区防災計画」は、ぜひ作成すべきだと思った。
〇地区防災計画の検討を通じて防災意識が高まった。

（感染症対応避難所・医療救護所設置運営訓練）

〇今回の訓練に参加して、新型コロナウィルス感染症対策を考慮した避難所運営について、一定のイメージを持つことができた。
〇避難所運営では感染症対策のほかにも、要配慮者、ペット、在宅避難者など配慮しなければならないことが多く、事前に考えておくことが必要だと思う。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

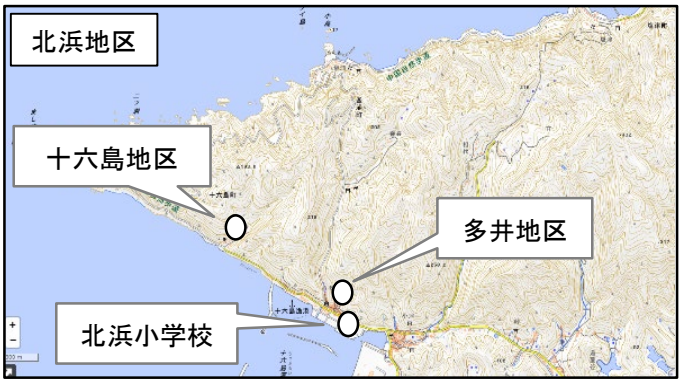
令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・島根県・出雲市）

実施報告書
（概要版）

島根県出雲市について

出雲市は、島根県の東部に位置し、北部は島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成され、市の東部には宍道湖、西部には神西湖があり、海、山、平野、川、湖と多彩な自然に恵まれています。宍道湖の西側に広がる出雲平野を中心に様々な農業生産が行われており、日本海と宍道湖に面しているため漁業も盛んであり、食の恵みが非常に豊かな地域である。

出雲市では、地震、津波による沿岸地域の大きな被害が予想されることから、沿岸地区の具体的な地域津波避難計画の策定や避難路の整備などの防災対策事業を実施しているほか、定期的に津波避難訓練を実施し、防災体制の強化と地域住民の防災意識高揚・知識の普及を図っている。



出典：国土地理院

令和2年度地震・津波防災訓練（内閣府・島根県・出雲市）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年11月8日（日）午前9時30分、島根半島沖合（Ｆ56）断層を震源とするマグニチュード7.7の地震が発生し、出雲市では震度7を観測。出雲市の沿岸部（河下港）では、20分後に約4.45m（最大津波高）の到達が予想されるとの想定で出雲市は直ちに沿岸部の住民に対し津波からの避難を呼び掛けた。

■実施日時：令和2年11月 8日（日）9:30～13:00
※　事前ＷＳ：10月31日（日）18:00～20:00
訓練後ＷＳ：11月21日（土）13:00～15:00

■主　　催：出雲市、島根県、内閣府

■参加者数：約170名

■参加機関：北浜地区自主防災組織、出雲市消防団、出雲市消防本部、出雲警察署、島根県、松江地方気象台、境海上保安部、陸上自衛隊出雲駐屯地

訓 練 の 評 価

コロナ禍という厳しい制約の中での訓練であったが、ワークショップ及び防災訓練（実動）を通して地域住民、地区防災組織、関係機関等が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

◆ワークショップ（以下、「ＷＳ」という。）

〇事前ＷＳにおいては、過去の災害を踏まえ、当該地区においてはどのような課題があるかなど活発な意見交換が行われた。

〇訓練後ＷＳにおいては、実動訓練における気づきの点や改善すべき事項について活発な意見交換を行い、地区防災計画見直しの検討契機となった。

◆防災訓練（実動）

〇地区ごとに指定された津波避難場所に速やかに避難し、到着後の確実な人員確認や災害対策本部への報告などが行われ、地域住民の防災意識の高さがうかがわれた。

〇沿岸部の急峻な地形のため、指定津波避難場所への安全な避難経路が確保できない場合の対応の検討が必要である。

など、訓練の成果を評価する意見とともに、今後の改善に繋がる有意義な訓練となった。

令和2年度地震・津波防災訓練（内閣府・島根県・出雲市）

訓練の内容

事前ワークショップ（10月31日（日）18：00～20：00）

防災訓練（実動）に先立ち、北浜地区の住民を対象としたワークショップを行い、地区の特性に応じた津波災害について話し合い、今後の地区防災計画見直しのための検討をした。

▼アドバイザー
跡見学園女子大学　鍵屋教授

▼ワークショップの様子
（課題や対策についてグループ討議）

地震・津波防災訓練　津波避難訓練（11月　8日（日）9：30～10：00）

平田地域（北浜地区）を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練及び津波避難訓練を実施した。

▼多井地区での
シェイクアウト訓練

▼若宮神社
津波避難訓練

▼十六島地区
津波避難訓練

地震・津波防災訓練　防災講話（11月　8日（日）10：45～11：50）

津波避難訓練終了後、北浜小学校に訓練会場を移して、気象台による防災講話を実施し、地震の仕組みや北浜地区での被害想定について住民の理解を深めた。

▼気象台による講話

▼自主防災組織等参加者

▼出雲市長挨拶

検証ワークショップ（11月21日（土）13：00～15：00）

防災訓練の成果を踏まえ、住民同士が気づきの点などを話し合い、今後、北浜地区防災計画を検討する上で参考とすることができた。

▼ワークショップの様子
（要配慮者の避難支援についてグループ討議）

▼アドバイザーによる
まとめ

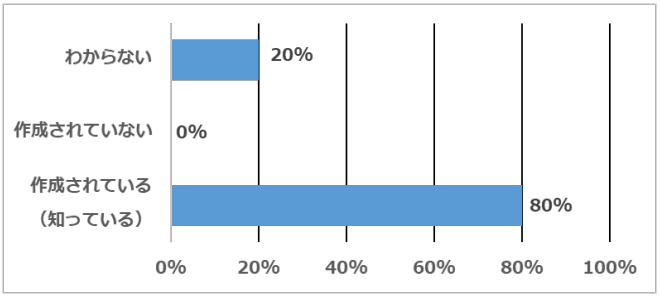
令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・島根県・出雲市）

アンケート結果

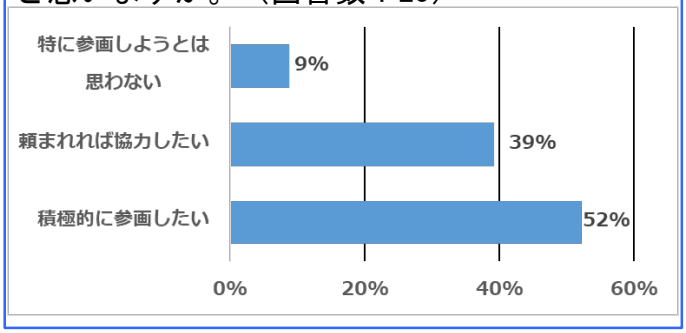
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（ 事前ＷＳ 防災訓練（実動） 検証ＷＳ ）

事前ＷＳ

あなたの住んでいる地区独自の「地区防災計画」は作成されていますか。（回答数：25）

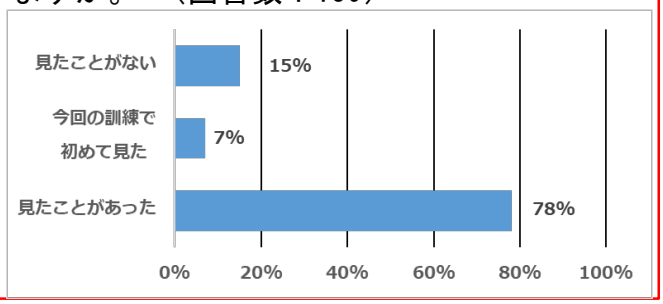


「地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いますか。（回答数：23）

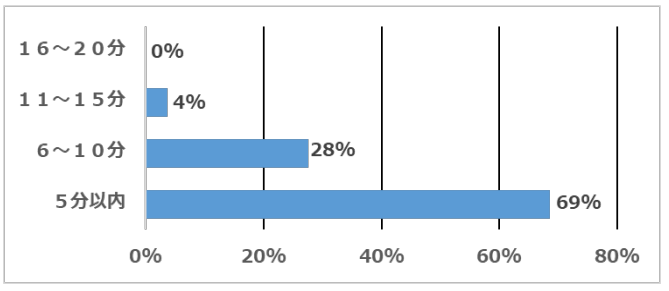


防災訓練（実動）

「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。（回答数：159）

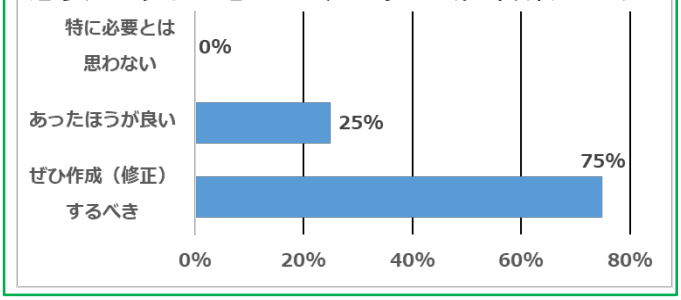


避難先へは何分かかりましたか。（回答数：159）

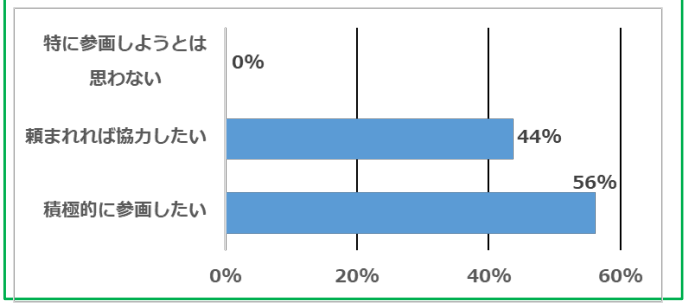


検証ＷＳ

「北浜地区防災計画」を作成（修正）する必要があると思いますか。（回答数：16）



「北浜地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いますか。（回答数：16）



【自由意見】

（事前ワークショップ）
〇アドバイザーの上手な運営でしっかりワークショップに取り組むことができた。

（防災訓練（実動））
〇サイレンの音、防災無線の放送が聞き取りにくかった。
〇津波避難場所には雨風等しのげる場所があると助かる。

（検証ワークショップ）
〇町内で防災のことを話し合ってみようと思う。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・岡山県玉野市）

実施報告書
（概要版）

岡山県玉野市について

玉野市は、岡山県の南端、瀬戸内海に面し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた、風光明美で温暖な気候の港湾都市である。

市の中心部にある宇野港は、岡山県の海の玄関口であり、瀬戸内海の海上交通の重要拠点として発展し、フェリーの定期航路のほか、県内で随一、クルーズ客船が寄港する港である。

平成16年8月の台風第16号による高潮災害では、宇野港で255cm(TP上)の最高潮位を観測し、住宅の床上・床下浸水や車両の水没等により、甚大な被害が発生した。

この災害を契機に次々に自主防災組織が結成され、現在69団体（エリアカバー率：約70%）が活動している。

市は、平成24年から全市一斉地震津波等防災訓練を実施しており、防災意識の高揚を図っている。また、自主防災組織や町内会を対象とした市主催の防災出前講座には、年間約1,200人の市民が参加している。

出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・岡山県玉野市）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年11月13日、午前9時5分に、南海トラフを震源とするマグニチュード9.1の地震が発生し、玉野市では震度6弱を観測。市の沿岸部（宇野港）では2時間後に約2.8m（最大津波高）の到達が予想されることを想定した実動訓練を行った。

■実施日時：令和2年11月13日（金）9:00～10:20
※　事前ＷＳ　：10月 2日（金） 9:00～12:00
訓練後ＷＳ：11月13日（金）10:20～12:00

■主　　催：内閣府、玉野市

■参加者数：15名※

※玉野市は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多数の市民が参加することにより、３密状態が発生することを避けるとともに、コロナ収束後に市職員が指導・助言できるよう市職員による訓練とした。

■参加機関：玉野市役所

訓 練 の 評 価

１　事前ワークショップ（10月2日）

香川大学磯打先生をアドバイザーに迎え、自主防災組織のリーダー等に対して「地区防災計画」の作成要領を普及できる職員等の養成を目的としたワークショップでは黒田玉野市長も参加し実施した。

参加者は、３つのグループに分かれ、市の課題や地区防災計画を通じて取り組みたいこと等に対して討論し、最後に討論の結果を発表することにより、成果の共有を図った。

２　実動訓練（11月13日）

総務部長をはじめ、市職員が参加して、シェイクアウト訓練及び避難所開設訓練を実施した。避難所開設訓練は、初めて行う職員がほとんどで、新型コロナウイルスの感染防止に配慮した避難所用資材（段ボーベッド及び間仕切りパーテーション）の組み立てや取扱い要領の実習に熱心に取り組み、感染対策を体得した。

３　訓練後ワークショップ（11月13日）

実動訓練に参加した市職員が、地区防災計画の作成に関連した避難のあり方に関する第2回ワークショップを実施し、避難についての問題点や自助・共助・公助でできることなどについて討論し、自主防災組織等地域住民による地区防災計画の作成を支援・指導できる職員等を養成することができた。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・岡山県玉野市）

訓練内容

事前ワークショップ（10月2日（金）9:00～12:00）

主催者（玉野市長及び内閣府訓練担当）の挨拶の後、市の防災担当者による災害履歴及び自主防災組織の活動状況の説明に続き、「地区防災計画」の作成要領を普及できる職員の養成を図るため、香川大学磯打先生による「地区防災計画の作成要領」に関するワークショップを実施した。

▼玉野市長の挨拶

▼内閣府訓練担当の挨拶

▼市防災担当者による災害履歴等の説明

▼磯打先生によるワークショップ

▼グループ討論の様子

▼成果の発表・共有

実動訓練（11月13日（金）9:00～10:20）

緊急地震速報の放送をきっかけにシェイクアウト訓練を実施した後、新型コロナウイルス感染防止に配慮した避難所開設訓練（避難所用資材の取扱い要領等）を実習した。

▼シェイクアウト訓練

▼ダンボールベッドの組み立て

▼間仕切りパーテーションの組み立て

訓練後ワークショップ（11月13日（金）10:20～11:50）

実動訓練終了後、磯打先生による第2回ワークショップを行ない、地区防災計画の中心となる避難のあり方等についてグループごとに討議・発表した。

▼磯打先生のアドバイス

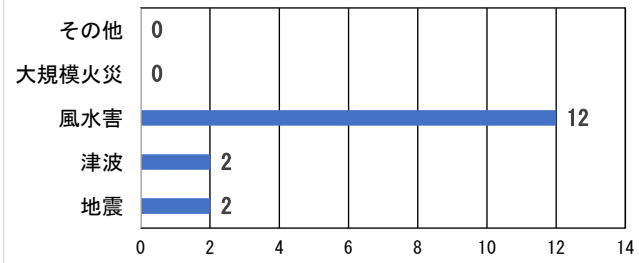
▼グループ討論の様子

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・岡山県玉野市）

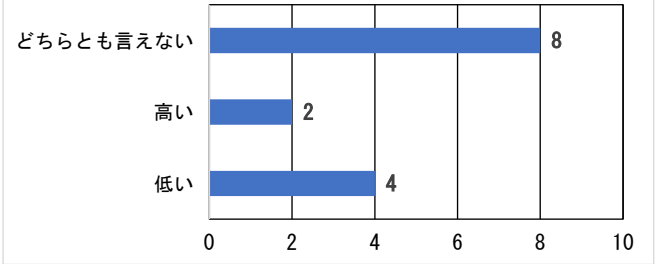
アンケート結果

防災意識や防災難対策への取組み状況等を把握するため、ワークショップ及び実動訓練に参加した市職員を対象にアンケート調査を実施した。

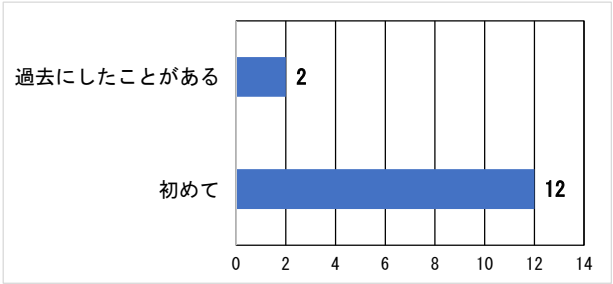
玉野市において優先的に対応すべきと考える災害事象は何であると考えますか。（回答者：14人）



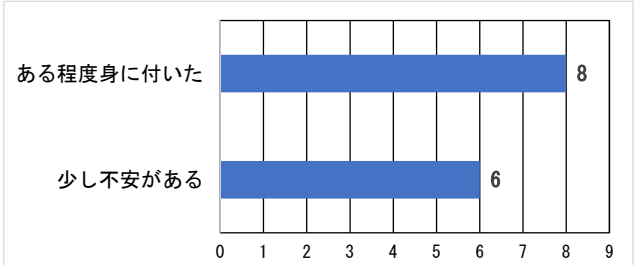
あなたは、市民の防災に対する意識をどう思いますか。（回答者：14人）



避難所開設訓練をしたことがありますか。（回答者：14人）

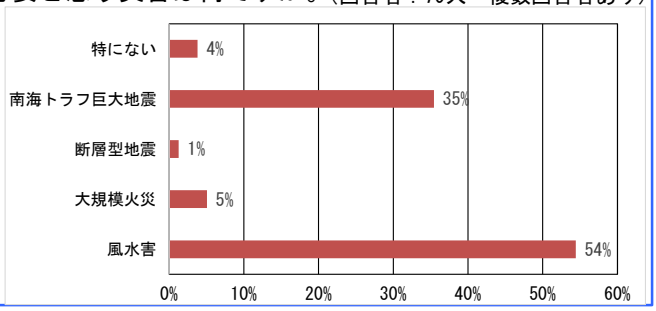


ワークショップに参加して、自主防災組織等に対し、「地区防災計画」の作成要領を普及できる知識が身に付いたと思いますか。（回答者：14人）

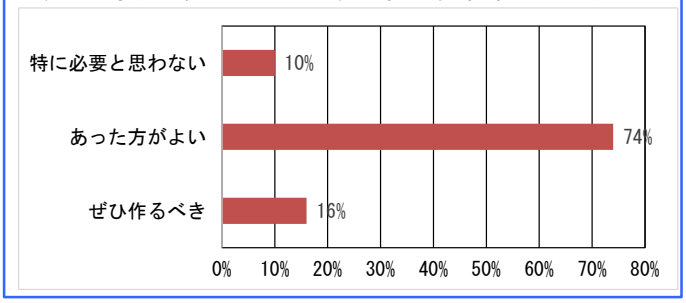


防災意識や防災難対策への取組み状況等を把握するため、玉野市の自主防災組織等のリーダーを対象にアンケート調査を実施した。

あなたの地域で特に発生するリスクが高く、事前対策が必要と思う災害は何ですか。（回答者：79人・複数回答者あり）



あなたの住んでいる地域で、地区防災計画を作成する必要があると思いますか。（回答者：50人）



【実動訓練及びＷＳ参加者の自由意見等から】

（全　般）

玉野市は、過去に高潮被害を受けた沿岸部と災害の少ない内陸部とでは防災意識に格差があるため、防災に対する関心が低い地域の住民の防災意識をいかに啓発するかが今後の課題である。

（ワークショップ）

自主防災組織等に対し、「地区防災計画」の作成要領を普及できる知識が、ある程度身に付いた。（参加者全体の約57%が身に付いたと回答）

（実動訓練）

区画割りやパーテーション、消毒のポイント、避難所でのルールなど、職員が避難者に対応できるように、今まで以上に実地訓練を定期的に行う必要があると思う。

（地区防災計画の作成）

「地区防災計画」を策定する作業は、地区住民同士のコミュニケーションの場にもなるので、よい機会になった。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・高知県・中土佐町）

実施報告書（概要版）

高知県中土佐町について

中土佐町は、海岸部（旧中土佐町地域）と山々に囲まれた海抜 300m 以上の台地部（旧大野見村地域）と大きく二分される。

中土佐町では、土佐湾沖の南海トラフを震源とする南海トラフ地震が 21 世紀前半にも非常に高い確率でその発生が懸念されており、ひとりひとりが地震の揺れから身を守り、迅速に安全な高台へ避難する、津波からの避難行動が極めて重要となっている。

今後の訓練や実際の災害時の実効性を高めるために、町としての自助・共助・公助のあり方や細部の調整の気づきを見いだすねらいとした。

町職員を中心に、避難所開設および迅速な運営と各チーム連携の重要性を認識し、町内の共助の重要性に気づく知識習得の機会とした。

地図出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・高知県・中土佐町）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年11月8日（日）、午前9時30分頃、南海トラフによる巨大地震が発生し、中土佐町では最大震度7を観測した。中土佐町では、停電が発生し、各信号交差点が混乱。その後、気象庁は大津波警報を発表、中土佐町役場では直ちに町内全域に対して地域防災無線で避難指示を発令し、防災関係機関は応急対策活動を開始した。

■実施日時：令和2年11月8日（日）9:30～12:00
（11月4日(水)事前ワークショップ、11月8日(日)訓練後ワークショップ）

■実施地区：中土佐町

■主　催：中土佐町、高知県、内閣府

■参加者数：130名程度

■参加機関：中土佐町職員、高幡消防組合中土佐分署等

※新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために参加者を絞り込み、役場職員が中心となった地震・津波防災訓練として実施し、自らの命を守ることと職員として災害対応を行うことの両面を検証する企画とした。

訓　練　の　評　価

訓練当日は天候にも恵まれ、全町職員約 130 名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、各班で振返りおよびアンケートを分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考とした。

【得られた成果】

〇町職員全員が津波到達予想時刻までに避難経路の要所を通過でき、浸水想定区域を越えることができた。

〇感染症対策として検温・手指消毒等の作業を滞りなく円滑に実施でき、実際の災害時の感染症対策の手順を確認できた。

【今後の対策案】

〇災害対策本部設置後は、統括責任者の指示のもと、適切でスピーディな情報共有・伝達できる体制や環境を整備しておくことが望ましい。

〇訓練後に役場本庁舎が移転しており、新たな初動体制の確立と習熟が必要である。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・高知県・中土佐町）

訓練内容

令和２年 10 月４日(水) 事前ワークショップ

災害時における共助を実践する上での町職員の役割についての講演にて、町民の自助・共助の必要性と地区防災計画作成の意義を学び、策定につなげる方策を検討し、訓練に向けて意識を高めた。

▼高知大学大槻知史准教授による講演会

▼ワークショップの様子

令和２年 11 月８日(日) 9:00～
シェイクアウト訓練・津波避難訓練・避難所開設訓練・設置運営訓練・災害対策本部設置運営訓練・通信資機材活用訓練・物資調達システム訓練・職員安否確認訓練・医療救護所開設運営訓練・情報伝達訓練

緊急地震速報の発表後、参加者は、役場庁舎内の各自の場所でシェイクアウト訓練を実施し、身の安全を確保した。

家具の転倒を想定し避難所の鍵など重要な物品の保管場所の検討が必要であることが分かった。

その後、最寄りの高台へ津波避難訓練を行った。この際、避難所開設に必要な物品持ち出しリストの必要性を実感した。

高台である久礼中学校へ避難後、災害対策本部を設置し、各担当の班ごとに各種初動対応訓練を行い、災害時の業務手順を確認した。発災時の役割分担について係毎に担当業務を整理した初動マニュアルの整備の必要性に気付くことができた。

また災害対策本部への情報伝達訓練では資機材の不備により情報交換ができない事案が発生したため確認が必要であることが分かった。

▼シェイクアウト訓練

▼津波避難訓練

▼災害本部設置運営訓練

▼避難所開設訓練

▼医療救護所開設運営訓練

11 月８日(日)11:30～ 訓練後ワークショップ

訓練終了後、各班で訓練時の行動を振り返り、初期対応では、他の班がどのような行動をとっているかの把握が難しく、災害対策本部との情報共有が課題にあがった。また各地域で地区防災計画を見直し、町と連携して、避難行動に取り組むことが必要であるとの認識を共有した。

▼振返りの様子

※本訓練は役場職員を対象とした訓練としたことから、感想聴取や知識の有無に関する質問を割愛し、役場職員としての心構えや、災害対応業務を円滑に進める上で考慮すべきこと等を聴取し取りまとめた。

①　今回の訓練で気付いた"あなたの班内"の課題があれば教えてください。

- 物資の確認が取れず、「何が、いくつ、どこにあるのか」把握する必要があると思った。
- 医療救護について、担架に乗せる時と、ベッドに乗せる時の２回の乗せ換えが発生する。実際の現場では出血していたり痛みを訴えたりすると思われるので更なる習熟が必要と感じた。
- 厚生部で医療教護（トリアージ）等を担ったが、12 名ほどの被災者がある程度順番に来ての対応にも職員の手が追いつかない状況であった。実際の被災時（被災者）の傷病者対応を考えると、とても職員だけでは対応が難しく対策が必要であると考える。
- トリアージをすることに必死になりすぎて、LINE WORKS の確認が行えていなかった。

②　今回の訓練で気付いた"配備全体"の課題があれば教えてください。

- 倉庫の物資を管理する方が必要と感じました。
- 訓練後の課内で、「経験と知識がない役場職員では、実際には対応できないのでは」と意見が上がったのが、トリアージ行為であった。医療従事者ではない職員のスキル・判断が必要であると感じた。
- 他の避難場所の備蓄庫カギや必要物資の場所が分からないので、出先や応援要請ではほぼ役に立てない状況のため、きちんと把握する必要がある。
- 訓練不足が否めずスムーズな対応ができたとは言い難いので、各班でシミュレーション訓練などを定期的に行う必要がある。

③　今後、"職員の防災スキルアップ"にとって必要と感じる訓練等があれば教えてください。

- 応急処置の方法について。
- 医療関係者の不足時に役立てるため、救急救命の訓練が定期的にあればいいと思う。
- 今回は参加者数の都合で配置された班以外の訓練にも参加しました。自分の班の役割を習熟することはもちろんですが、有事の際には人員が不足すると思われるので自分の班以外の役割をこなせるようになり、結果として全体の対応能力が向上すればと思った。
- 機器の機能と操作方法等の勉強会。少数配備時に優先すべき業務の整理。
- 各避難所の概要把握。（例）消防団の防火水槽ＭＡＰ。
- 仮想危険箇所（表示付き）も組合せ、新庁舎での対応訓練を実施したい。
- 今回他の班がどういった動きをしているかが全く分からなかったので、情報伝達に関する訓練があれば情報共有もスムーズにいくかと思う。